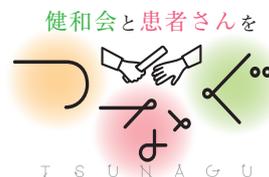


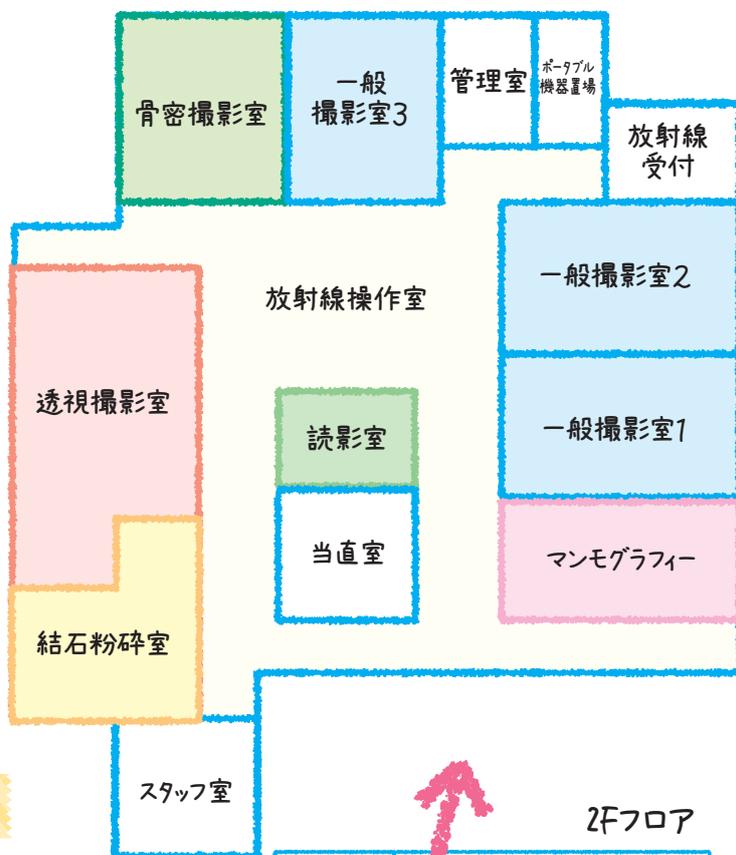
もっと さらに より 短時間での的確な画像の提供を安全に

今回は医療の質の保証となる画像診断を支える放射線部をご紹介します。

新病院では放射線部の検査室は1FのCT・MRIブロック、2Fの一般撮影・透視ブロックに分かれました。今回は2Fの紹介です。



新病院で導入する透視機器は、観察部位を効率よく強調し、徹底した被ばく低減と見やすい画像作成を両立するシステムになります。車いすの患者さんの移動も安全に行える仕様になっています。



新しい X 線一般撮影機器では、従来よりも被ばくを低減できる仕様になり、やさしい医療を実現します。安定した X 線出力と優れた応答性で、低被ばく高画質な撮影が可能になります。



現AMULET

マンモグラフィーは乳がん検査に使用するデジタル X 線撮影装置です。従来の装置よりも低線量で、高画質の画像を撮影できるものを導入します。

配置のポイント

Point 1

今まで遠かった心電図室・エコー室と廊下を挟んで向い合わせになります。複数の検査がある場合、移動距離が短くなり、患者さんの負担が軽減されます。

Point 2

現病院では撮影操作室が横長でしたが、新病院ではコンパクトになります。これにより、スタッフの動線を短くするとともに、お互いの作業状況を把握しやすくなり、より安全な医療の提供ができるようになります。



機器選定のポイント

患者さんの苦痛や被ばくを極力軽減し、より短時間で高画質な画像を提供することに重点を置いて、撮影機器を選定しています。

院内の今後のスケジュール

工事の方は順調に進んでいますが、これから、医療機器と什器（机・椅子・棚など）の最終決定、システム構築、外装・内装、そして移転（引越）や開院後の新しい業務ルールのことを決めていくことになります。通常の医療活動に加え、新病院移転準備、さらにコロナ対応と大変ですが、新病院開設に向けてピッチを上げていきます！

2020年度

8月

：什器のヒアリング、医療機器の選定

12月

：医療機器・什器の決定、引越チームの始動

9月

：引越業者決定

3月

：医療機器・什器の発注

10月

：什器の仕様確定



感染対策を講じながら病院建設を進めています



新型コロナウイルス感染症の影響により、流通や人の往来が以前のようにできない状況ではありますが、感染対策をしながら新病院の建設は着々と進んでいます。1階部分の全体にコンクリートが入りました。

建設現場の会議室や休憩所では部屋の広さに応じた人数の上限を明示したり、会議用のテーブルや休憩用の机には飛沫防止用のアクリル板を設置したり、徹底して感染対策を行っています。

新型コロナウイルス
対策実施中

検温
入退室の検温管理を
しています。

マスク
マスクを着用しています。
特に密着の場、マスク
を着用を徹底しています。

消毒
休憩時・食事時は
消毒を実施しています。

手洗い
こまめに手洗い（うがい）
を実施しています。

換気
定期的に換気を
しています。

距離
出陣るだけ距離を
確保しています。

>
さらなる安心を

ひとことリレー

NO. 10
Otemachi Hospital

放射線部 技師長
永原 章男

新大手町病院竣工に向けて、
新病院にかける意気込み・各部門の特徴を紹介します！

放射線技師の仕事は放射線機器を操作して、医師が要求する画像データを「正確に」、「素早く」、「患者さんの苦痛を少なく」、収集し提供することです。そのためにも新しい放射線機器の操作方法の早期習得、また装置の持つ能力を最大限に引き出す必要があります。さらに検査を受けられる患者さんの被ばく線量の低下を目指していきます。

また放射線機器は、病院の中で使用する機器の中で最も高価な部類です。日常点検作業を確実に実施することで、これら装置の不具合を早期に発見・対処することで長く大切に使用し、待ち時間の少ないより安定した検査ができるようにスタッフみんなで頑張っていきます。